

本県の母子保健指標等について

1 人口動態

- 本県の令和6年の死産率は令和5年より高く、周産期死亡率、乳児死亡率は令和5年より低くなっている。
- 本県の令和6年の死産率、乳児死亡率、低出生体重児出生割合は全国より高い。

表1 本県の周産期小児関連の母子保健指標（H26～R6）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6 (全国)
出生数 (単位：人)	14,236	14,125	13,688	13,209	12,956	11,977	11,638	11,618	10,540	9,868	8,939	686,173
出生率 人口千対	8.7	8.6	8.4	8.2	8.1	7.5	7.4	7.4	6.8	6.4	5.9	5.7
合計特殊出生率	1.62	1.70	1.68	1.69	1.70	1.63	1.61	1.65	1.54	1.48	1.38	1.15
死産数 (単位：人)	391	379	327	311	289	287	278	263	231	225	220	15,323
死産率 (出産千対)	26.7	26.1	23.3	23.0	21.8	23.4	23.3	22.1	21.4	<u>22.3</u>	<u>24.0</u>	<u>21.8</u>
妊産婦死亡数 (単位：人)	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	32
妊産婦死亡率 (出産10万対)	6.8	0.0	0.0	7.4	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.9	21.8	4.6
周産期死亡数 (単位：人)	47	58	42	46	37	35	34	47	26	30	20	2,285
内訳 妊娠満22週以降 の死産数	37	46	35	34	31	25	27	42	21	25	16	1,800
早期新生児 死亡数	10	12	7	12	6	10	7	5	5	5	4	485
周産期死亡率 (出生千対)	3.3	4.1	3.1	3.5	2.8	2.9	2.9	4.0	2.5	<u>3.0</u>	<u>2.2</u>	3.3
内訳 妊娠満22週以降 の死産率	2.6	3.2	2.6	2.6	2.4	2.1	2.3	3.6	2.0	2.5	1.8	2.6
早期新生児 死亡率	0.7	0.8	0.5	0.9	0.5	0.8	0.6	0.4	0.5	0.5	0.4	0.7
乳児死亡数 (単位：人)	38	37	32	35	32	24	24	19	26	22	19	1,266
乳児死亡率 (出生千対)	2.7	2.6	2.3	2.6	2.5	2.0	2.1	1.6	2.5	<u>2.2</u>	<u>2.1</u>	<u>1.8</u>
新生児死亡数 (単位：人)	17	15	9	14	9	13	7	8	7	7	5	637
新生児死亡率 (出生千対)	1.2	1.1	0.7	1.1	0.7	1.1	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.9
低出生体重児数 (単位：人)	1,587	1,475	1,410	1,519	1,386	1,292	1,208	1,262	1,074	1,086	957	67,134
体重別 ～ 999g	61	48	38	46	51	51	42	52	42	37	31	2,226
1,000～1,499g	76	76	73	68	71	67	74	63	40	65	54	3,220
1,500～1,999g	232	196	191	188	179	152	146	165	154	164	127	8,846
2,000～2,499g	1,218	1,155	1,108	1,214	1,085	1,022	946	982	838	820	745	52,842
低出生体重児出生 割合（出生百対）	11.1	10.4	10.3	11.5	10.7	10.8	10.4	10.9	10.2	11.0	<u>10.7</u>	<u>9.8</u>

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(1) 出生（出生数・率，合計特殊出生率，年齢階級別出生割合）

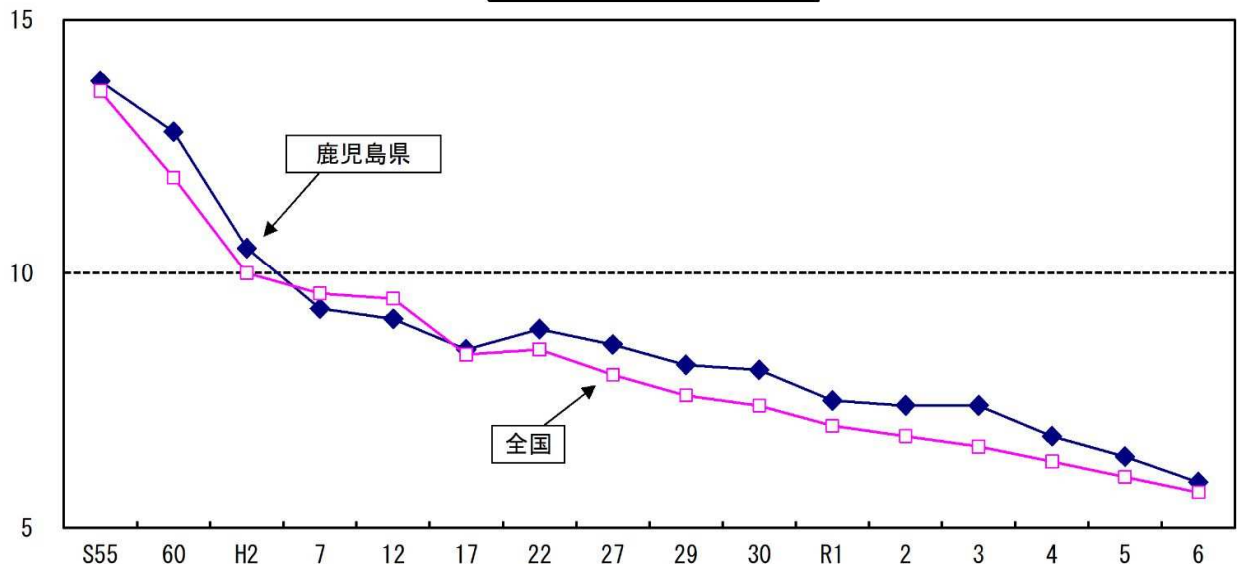
本県の令和6年の出生数は8,939人で、令和5年の9,868人より929人減少し、出生率は5.9であった。

また、1人の女性が一生に生む子どもの数を表す合計特殊出生率は、令和6年は1.38であり、令和5年の1.48を下回った。全国の1.15より高く、都道府県別では6位となっている。

令和6年の母の年齢階級別出生割合は、35歳以上が29.8%であり、全国の30.3%より低い。年々増加傾向にある。

人口千対

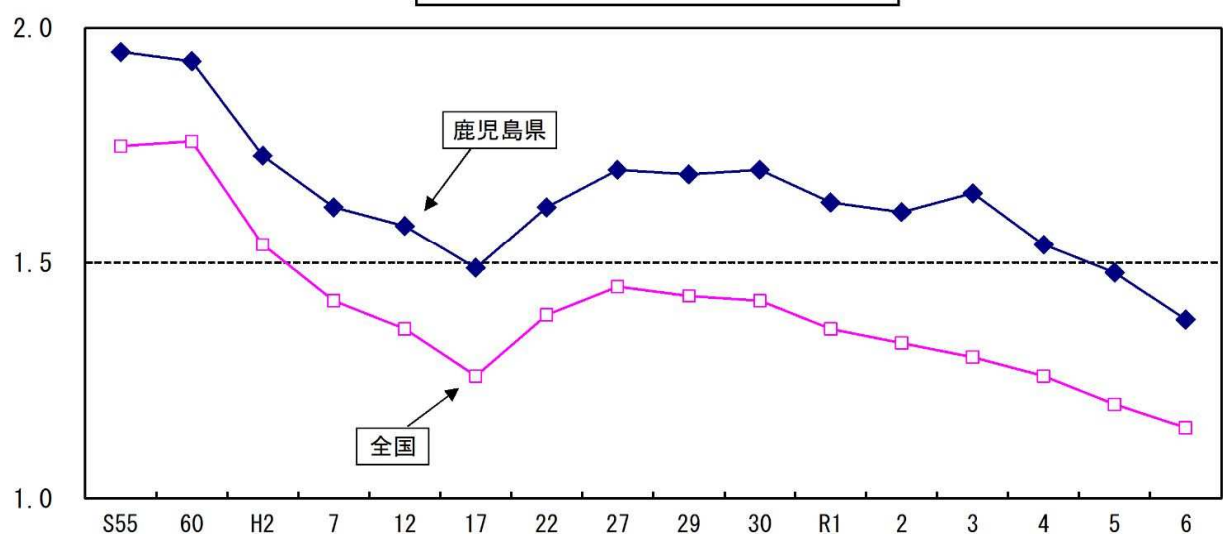
図1 出生率の年次推移



年次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	29	30	R1	2	3	4	5	6
鹿児島県	13.8	12.8	10.5	9.3	9.1	8.5	8.9	8.6	8.2	8.1	7.5	7.4	7.4	6.8	6.4	5.9
全国	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5	8.0	7.6	7.4	7.0	6.8	6.6	6.3	6.0	5.7

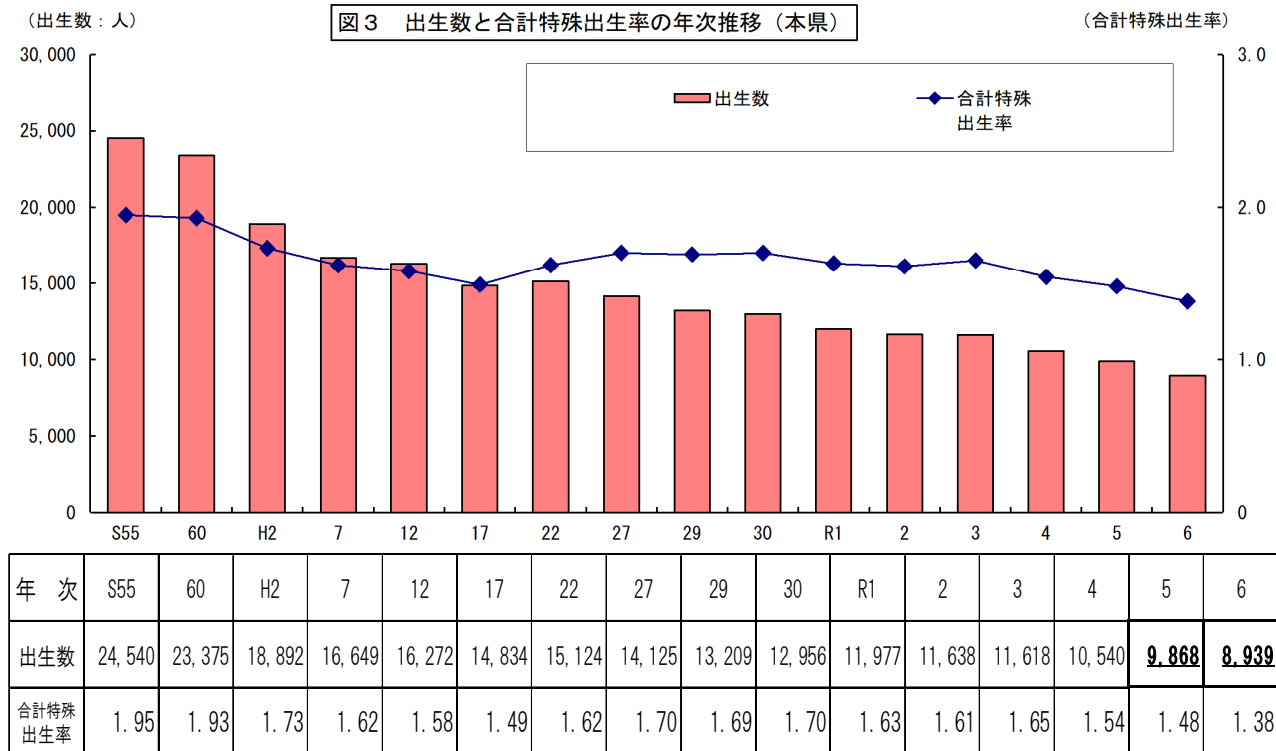
資料：本県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」

図2 合計特殊出生率の年次推移



年次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	29	30	R1	2	3	4	5	6
鹿児島県	1.95	1.93	1.73	1.62	1.58	1.49	1.62	1.70	1.69	1.70	1.63	1.61	1.65	1.54	1.48	1.38
全国	1.75	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.2	1.15

資料：本県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」



資料：本県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」

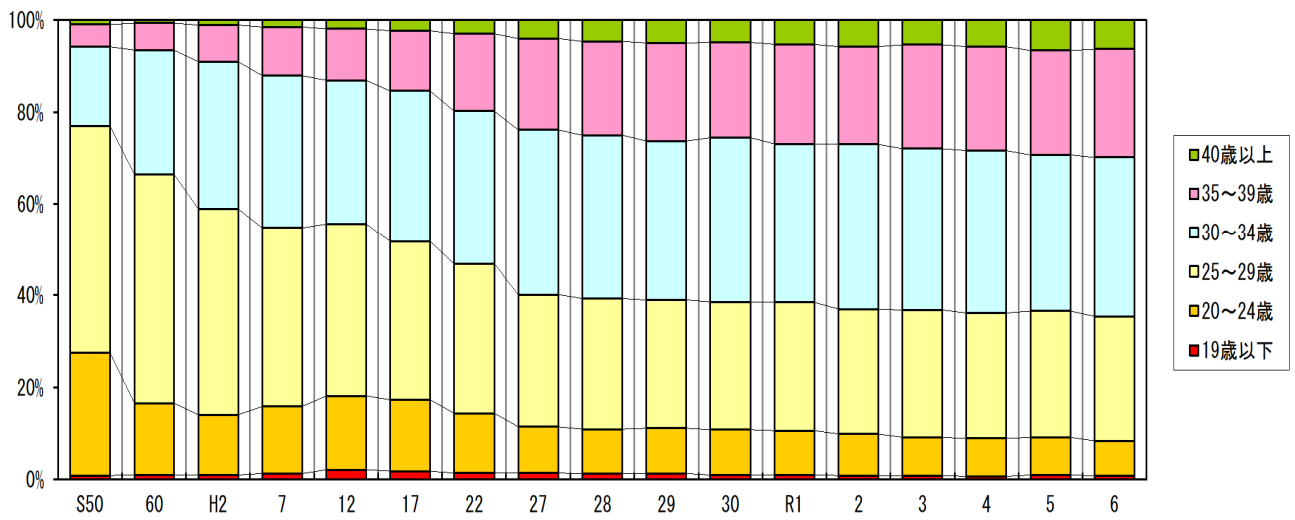
表2 保健所・市町村別合計特殊出生率

	H20～24	H25～29	H30～R4
鹿児島県	1.62	1.68	1.62
鹿児島市保健所	1.42	1.51	1.50
鹿児島市	1.42	1.51	1.50
伊集院保健所	1.53	1.58	1.59
日置市	1.54	1.61	1.66
いちき串木野市	1.55	1.56	1.48
三島村	1.56	1.59	1.60
十島村	1.49	1.72	1.57
加世田保健所	1.65	1.69	1.62
枕崎市	1.59	1.63	1.57
南さつま市	1.69	1.73	1.62
南九州市	1.68	1.71	1.68
指宿保健所	1.64	1.65	1.59
指宿市	1.64	1.65	1.59
川薩保健所	1.85	1.85	1.80
薩摩川内市	1.86	1.89	1.84
さつま町	1.78	1.64	1.59
出水保健所	1.82	1.91	1.79
阿久根市	1.60	1.71	1.61
出水市	1.85	1.92	1.77
長島町	2.06	2.20	2.11
姶良保健所	1.67	1.70	1.67
霧島市	1.73	1.72	1.66
姶良市	1.55	1.65	1.67
湧水町	1.79	1.81	1.91
大口保健所	1.90	1.87	1.82
伊佐市	1.90	1.87	1.82

資料：厚生労働省
「人口動態統計特殊報告」

	H20～24	H25～29	H30～R4
志布志保健所	1.78	1.86	1.70
曾於市	1.61	1.68	1.59
志布志市	1.95	2.03	1.80
大崎町	1.81	1.88	1.77
鹿屋保健所	1.88	1.94	1.81
鹿屋市	1.93	2.01	1.85
垂水市	1.56	1.63	1.51
東串良町	1.86	1.80	1.80
錦江町	1.91	1.67	1.69
南大隅町	1.78	1.67	1.83
肝付町	1.65	1.78	1.74
西之表保健所	2.04	1.97	1.92
西之表市	1.94	1.87	1.71
中種子町	2.00	1.95	1.99
南種子町	2.03	1.99	1.99
屋久島保健所	2.03	1.99	1.71
屋久島町	2.03	1.99	1.71
名瀬保健所	1.91	2.00	1.85
奄美市	1.83	1.88	1.75
大和村	1.78	1.83	1.85
宇検村	1.69	1.90	1.77
瀬戸内町	2.06	1.92	1.82
龍郷町	1.83	2.13	1.82
喜界町	2.00	2.16	1.89
徳之島保健所	2.43	2.54	2.19
徳之島町	2.18	2.40	2.25
天城町	2.12	2.28	2.24
伊仙町	2.81	2.46	1.98
和泊町	2.00	2.15	1.87
知名町	2.02	2.26	1.79
与論町	2.10	1.99	1.62

図4 母の年齢階級別出生割合



(単位：％)

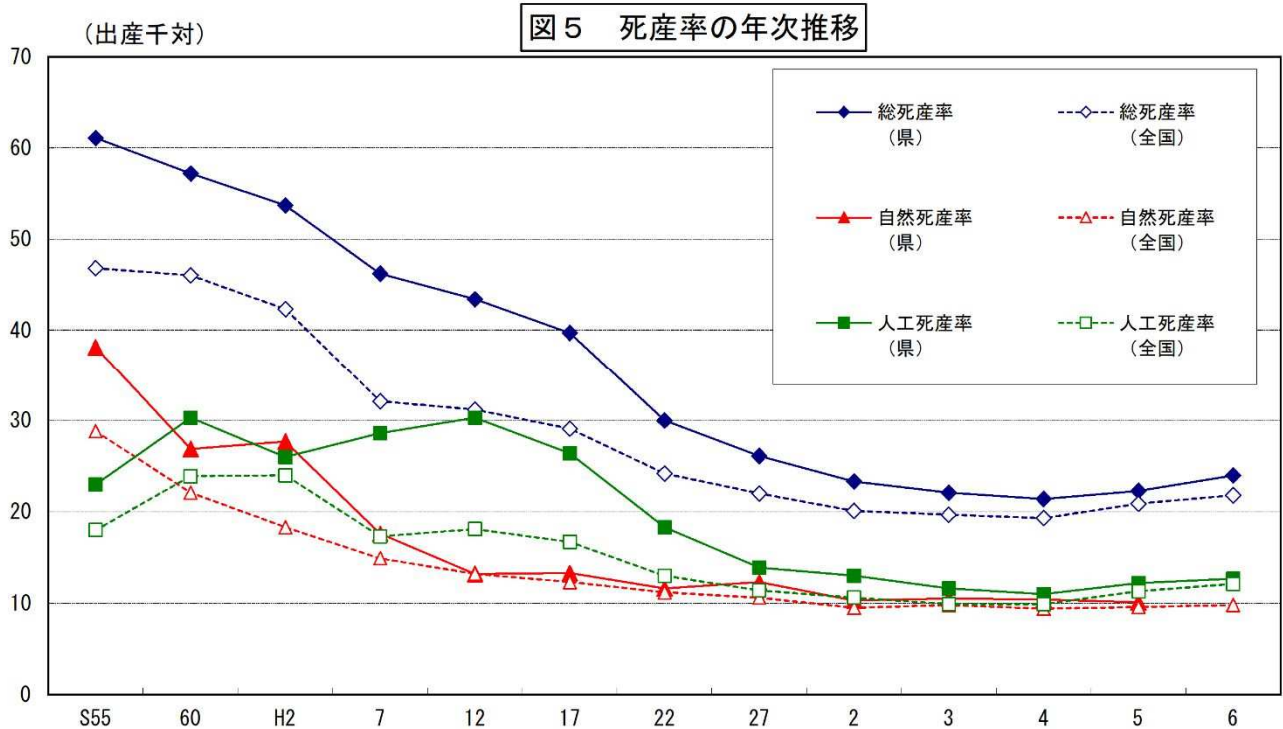
	S50	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6	国 (R6)
40歳以上	0.9	0.6	1.0	1.4	1.9	2.3	2.9	4.0	4.6	4.9	4.7	5.2	5.7	5.3	5.7	6.6	<u>6.3</u>	<u>6.6</u>
35~39歳	4.8	5.9	8.0	10.6	11.2	13.1	16.8	19.9	20.5	21.4	20.8	21.7	21.3	22.6	22.7	22.8	<u>23.5</u>	<u>23.7</u>
30~34歳	17.3	27.0	32.0	33.3	31.3	32.8	33.4	36.1	35.8	34.8	35.9	34.7	36.0	35.3	35.5	34.1	34.8	36.9
25~29歳	49.5	50.0	45.0	39.0	37.5	34.5	32.5	28.7	28.4	27.9	27.8	27.8	27.1	27.7	27.3	27.5	27.0	25.9
20~24歳	26.6	15.6	13.1	14.5	16.0	15.5	12.9	10.0	9.6	9.9	9.8	9.7	8.9	8.3	8.3	8.2	7.7	6.2
19歳以下	0.8	0.9	0.9	1.3	2.1	1.8	1.4	1.4	1.3	1.2	1.0	0.9	0.9	0.8	0.6	0.9	0.7	0.6

資料：本県「衛生統計年報」，厚生労働省「人口動態統計」

(2) 死産（死産数・死産率）

本県の総死産率は令和6年で24.0、全国より依然高率で推移している。

内訳となる自然死産率は11.4で全国の9.8より1.6ポイント高く、人工死産率も12.7と全国の12.1より0.6ポイント高かった。



区分	S55	60	H2	7	12	17	22	27	2	3	4	5	6
死産総数（県）	1,596	1,417	1,072	806	739	613	467	379	278	263	231	225	220
自然死産数（県）	903	667	553	306	224	205	181	178	123	125	112	102	104
人工死産数（県）	603	750	519	500	515	408	286	201	155	138	119	123	116
総死産率（県）	61.1	57.2	53.7	46.2	43.4	39.7	30.0	26.1	23.3	22.1	21.4	22.3	24.0
総死産率（全国）	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.0	20.1	19.7	19.3	20.9	21.8
自然死産率（県）	38.1	26.9	27.7	17.6	13.2	13.3	11.6	12.3	10.3	10.5	10.4	10.1	11.4
自然死産率（全国）	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	9.5	9.8	9.4	9.6	9.8
人工死産率（県）	23.0	30.3	26.0	28.6	30.3	26.4	18.3	13.9	13.0	11.6	11.0	12.2	12.7
人工死産率（全国）	18.0	23.9	24.0	17.3	18.1	16.7	13.0	11.4	10.6	9.9	9.9	11.3	12.1

資料：厚生労働省「人口動態統計」

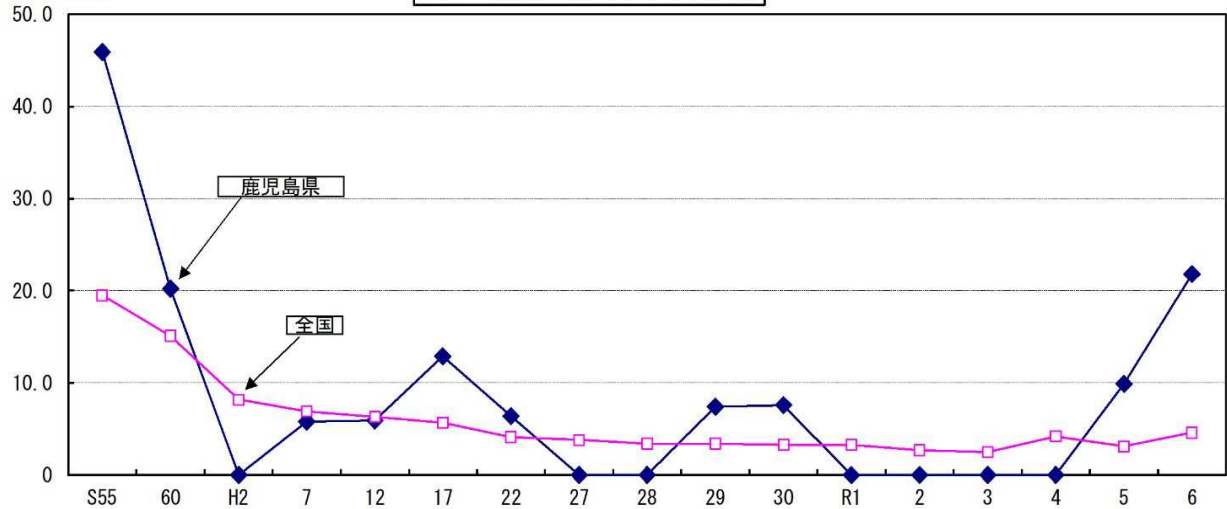
(3) 妊産婦死亡

妊産婦死亡率は全国的に減少傾向で低率で推移している。

本県においては、平成2年以降の妊産婦死亡数は0～2人で推移しており、令和6年は2人であった。

出産10万対

図6 妊産婦死亡率の年次推移



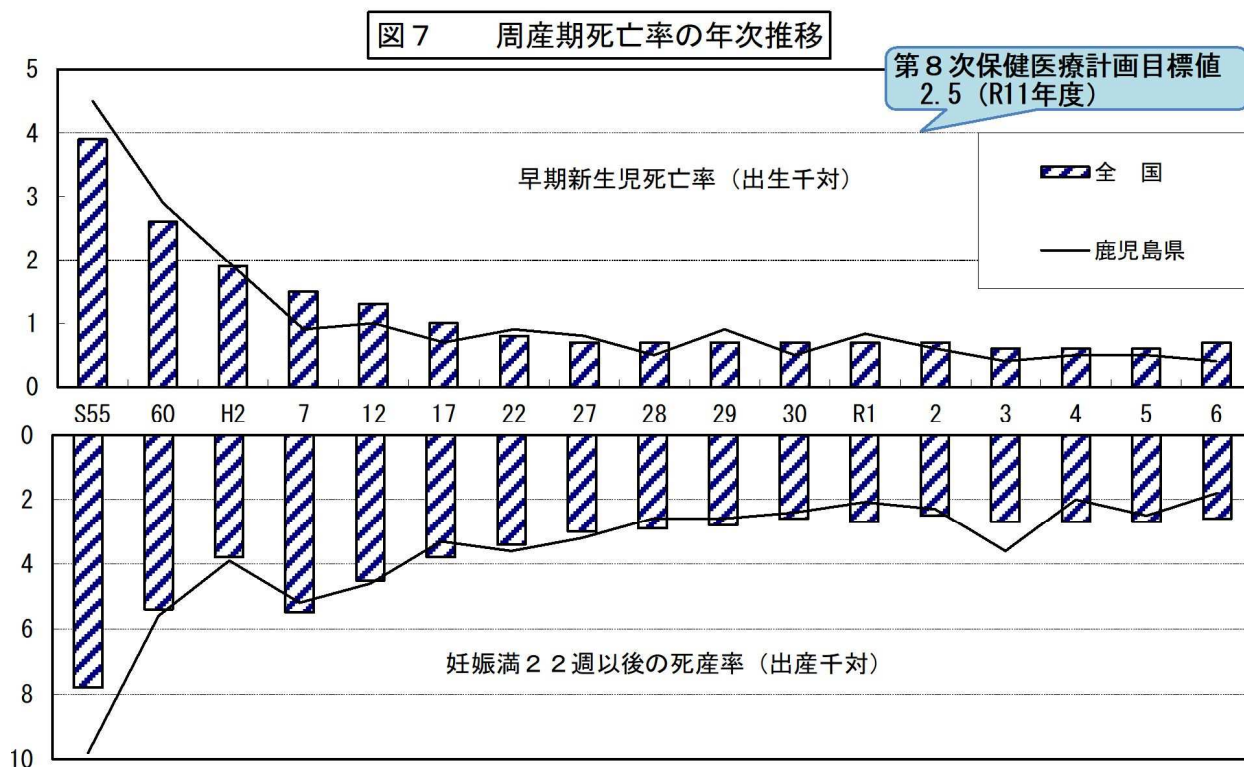
年次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
死亡数	12	5	0	1	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2
死亡率(県)	45.9	20.2	0	5.8	5.9	12.9	6.4	0	0	7.4	7.6	0	0	0	0	9.9	21.8
死亡率(国)	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.1	3.8	3.4	3.4	3.3	3.3	2.7	2.5	4.2	3.1	4.6

資料：本県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」

(4) 周産期死亡

本県の周産期死亡率は減少傾向で推移しており、令和6年は2.2(過去最低)と全国の3.3よりも低く、第8次保健医療計画の目標値2.5(R11年度)を達成している。

令和6年の周産期死亡数20人のうち、後期死産は16人で令和5年の25人より9人減少している。



(単位：人，出産千対，出生千対)

年次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
周産期死亡数	349	197	108	105	92	60	67	58	42	46	37	35	34	47	26	30	20
後期死産	240	130	73	89	76	49	54	46	35	34	31	25	27	42	21	25	16
早期新生児死亡	110	67	35	16	16	11	13	12	7	12	6	10	7	5	5	5	4
周産期死亡率(県)	14.2	8.4	5.7	6.3	5.6	4.0	4.4	4.1	3.1	3.5	2.8	2.9	2.9	4.0	2.5	3.0	2.2
周産期死亡率(国)	11.7	8.0	5.7	7.1	5.8	4.8	4.2	3.7	3.6	3.5	3.3	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.3
早期新生児死亡率(県)	4.5	2.9	1.9	0.9	1.0	0.7	0.9	0.8	0.5	0.9	0.5	0.8	0.6	0.4	0.5	0.5	0.4
早期新生児死亡率(国)	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7
妊娠満22週以後の死産率(県)	9.8	5.6	3.9	5.2	4.6	3.3	3.6	3.2	2.6	2.6	2.4	2.1	2.3	3.6	3.6	2.5	1.8
妊娠満22週以後の死産率(国)	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	2.9	2.8	2.6	2.7	2.5	2.7	2.7	2.7	2.6

資料：本県「衛生統計年報」，厚生労働省「人口動態統計」

表3 令和6年妊娠満22週以後の死産の妊娠期間別死産数と割合

(単位：人，%)

週数	22～27週	28～31週	32～36週	37～41週	42週～	計
死産数	3	4	2	7	0	16
割合	18.8	25.0	12.5	43.7	0.0	100.0

資料：厚生労働省「人口動態統計」

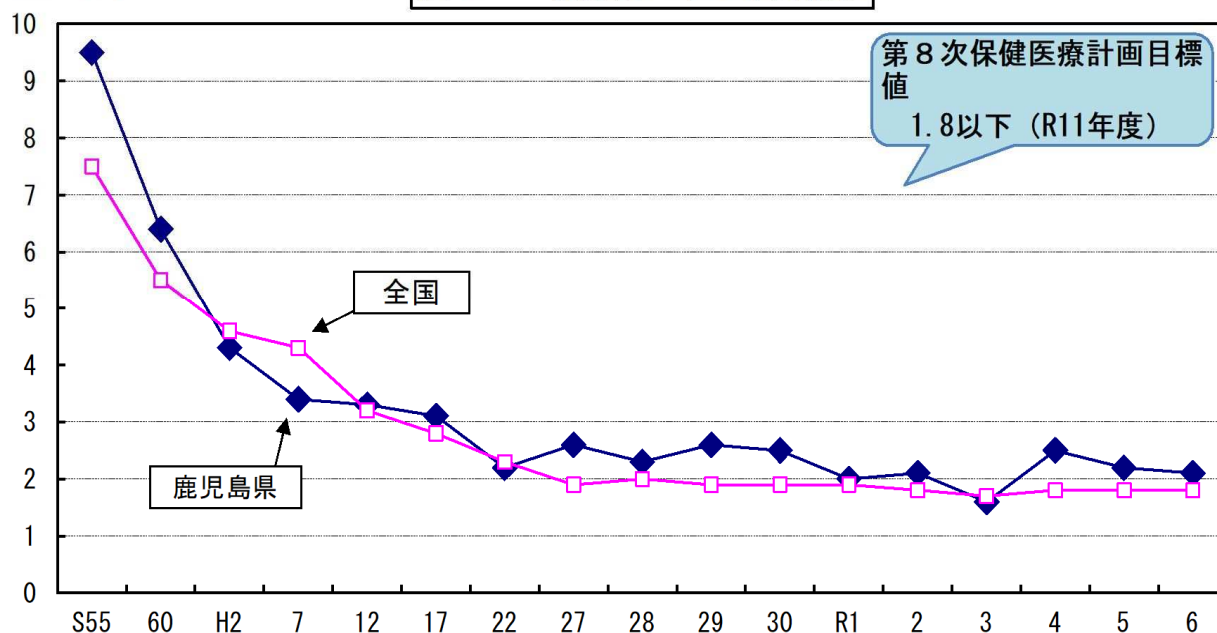
(5) 乳児死亡

乳児死亡数・率は変動しながら減少傾向で推移している。

本県の令和6年は19人(出生千対2.1)で、第8次保健医療計画の目標値1.8以下(R11年度)を上回っており、全国の1.8より高かった。

出生千対

図8 乳児死亡率の年次推移



年次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
乳児死亡数	233	150	81	56	53	46	34	37	32	35	32	24	24	19	26	22	19
乳児死亡率(県)	9.5	6.4	4.3	3.4	3.3	3.1	2.2	2.6	2.3	2.6	2.5	2.0	2.1	1.6	2.5	2.2	2.1
乳児死亡率(国)	7.5	5.5	4.6	4.3	3.2	2.8	2.3	1.9	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8

資料：厚生労働省「人口動態統計」

図9 生存期間別乳児死亡構成割合
(令和6年 乳児死亡数19人, 本県)

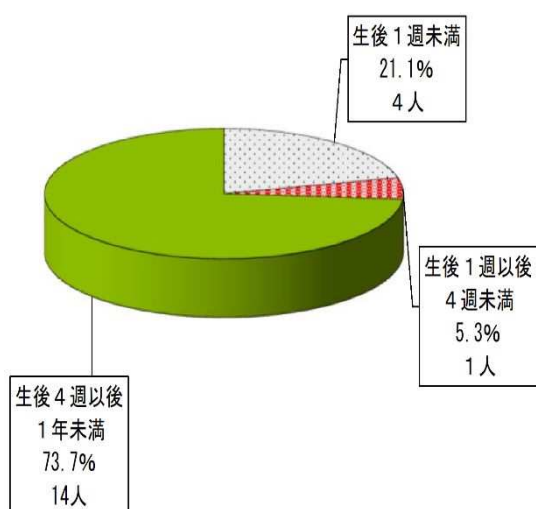
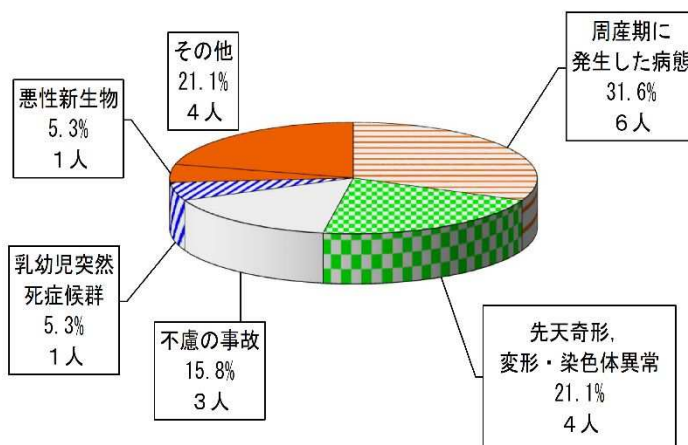


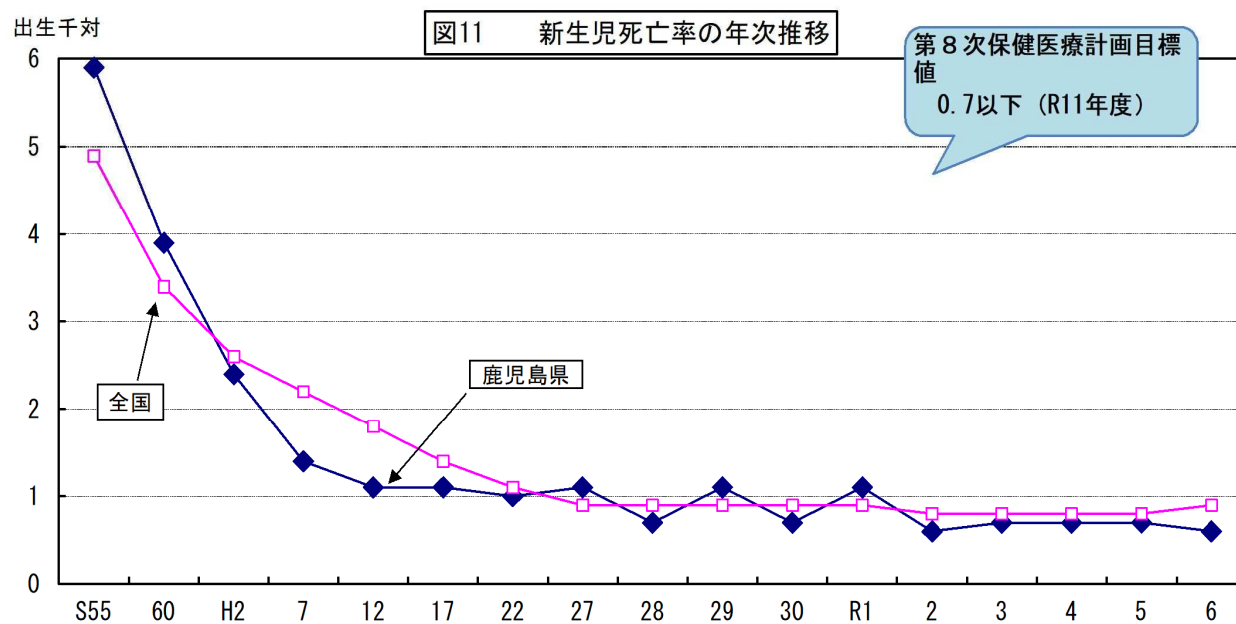
図10 主な死因別乳児死亡数及び割合
(令和6年 乳児死亡数19人, 本県)



(6) 新生児死亡

新生児死亡数・率についても減少傾向で推移している。

本県の令和6年は5人(出生千対0.6)で、第8次保健医療計画の目標値0.7以下(R11年度)を達成し、全国の0.9より低かった。



年 次	S55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
新生児死亡数	144	90	45	24	18	17	15	15	9	14	9	13	7	8	7	7	<u>5</u>
新生児死亡率(県)	5.9	3.9	2.4	1.4	1.1	1.1	1.0	1.1	0.7	1.1	0.7	1.1	0.6	0.7	0.7	0.7	<u>0.6</u>
新生児死亡率(国)	4.9	3.4	2.6	2.2	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	<u>0.9</u>

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(7) 低出生体重児

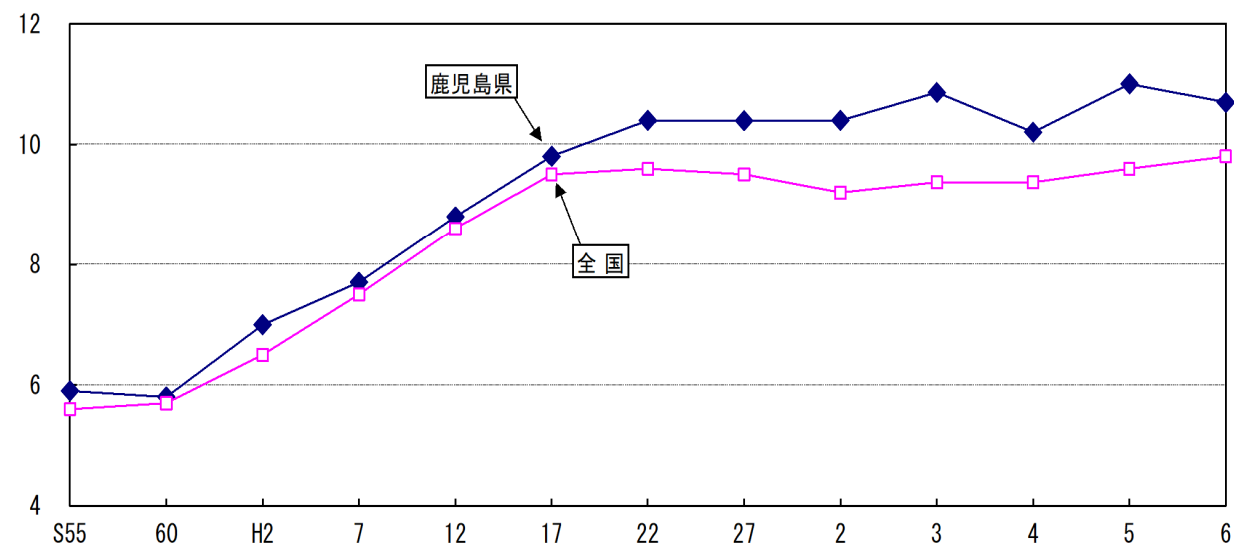
本県の2,500g未満の低出生体重児出生割合は全国より高く推移しており、平成22年から出生数の1割以上となっている。令和6年は10.7と全国の9.8より0.9ポイント高かった。

低出生体重児を出生体重別にみると、2,000g～2,499gの割合が最も高く8.3、1,500g～1,999gの割合が1.4、1,500g未満の割合が1.0となっている。

母の年齢階級別に低出生体重児出生割合をみると、45歳以上が16.7%と最も高く、次いで40～44歳以下の12.0%、35～39歳以下の11.7%となっていた。

出生百対

図12 低出生体重児出生割合の年次推移



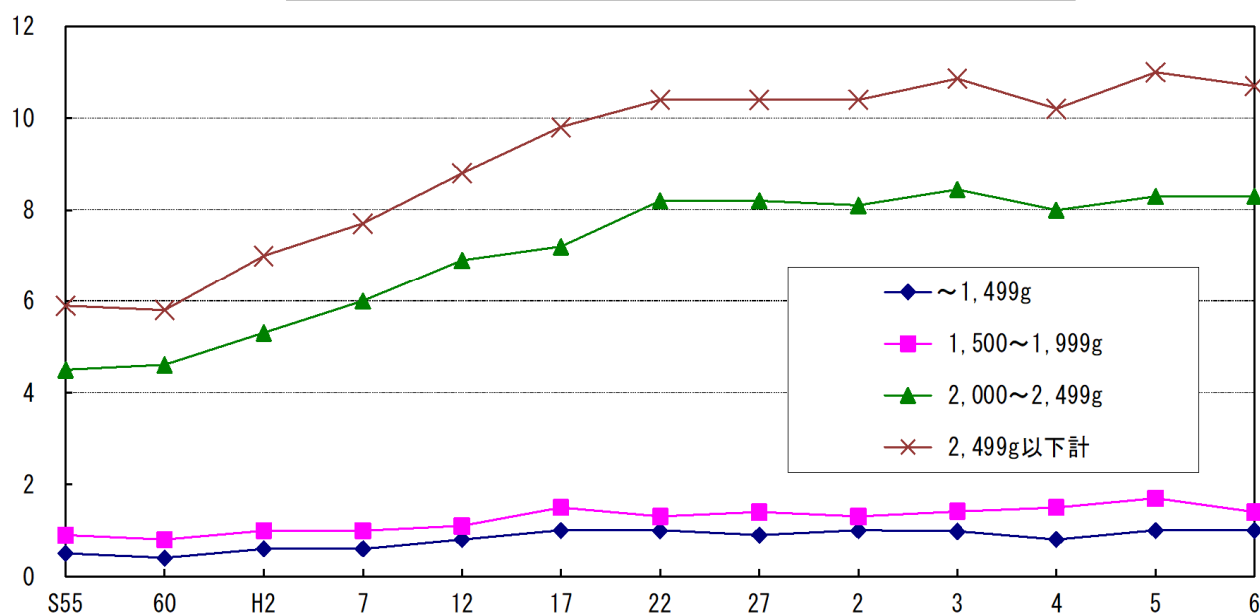
区分	S55	60	H2	7	12	17	22	27	2	3	4	5	6
低出生体重児出生数(県)	1,754	1,362	1,323	1,278	1,424	1,449	1,577	1,475	1,208	1,262	1,074	1,086	957
割合(県)	5.9	5.8	7.0	7.7	8.8	9.8	10.4	10.4	10.4	10.9	10.2	11.0	10.7
割合(国)	5.6	5.7	6.5	7.5	8.6	9.5	9.6	9.5	9.2	9.4	9.4	9.6	9.8

資料：厚生労働省「人口動態統計」

※平成6年までは低出生体重児とは2,500g以下、平成7年からは2,500g未満である。

出生百対

図13 出生体重別低出生体重児出生割合の年次推移（本県）



年体重	S55	60	H2	7	12	17	22	27	2	3	4	5	6
～1,499g	0.5	0.4	0.6	0.6	0.8	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	0.8	1.0	<u>1.0</u>
1,500～1,999g	0.9	0.8	1.0	1.0	1.1	1.5	1.3	1.4	1.3	1.4	1.5	1.7	<u>1.4</u>
2,000～2,499g	4.5	4.6	5.3	6.0	6.9	7.2	8.2	8.2	8.1	8.5	8.0	8.3	<u>8.3</u>
2,499g以下計	5.9	5.8	7.0	7.7	8.8	9.8	10.4	10.4	10.4	10.9	10.2	11.0	10.7

資料：厚生労働省「人口動態統計」

※平成6年までは低出生体重児とは2,500g以下、平成7年からは2,500g未満である。

表4 令和6年母の年齢階級別低出生体重児出生割合（本県）

区分	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	計
2,500g未満 出生割合(%)	6.3	10.7	9.6	10.8	<u>11.7</u>	<u>12.0</u>	<u>16.7</u>	10.7
2,500g未満 出生数(人)	4	73	231	335	245	65	4	957
出生数(人)	64	685	2,415	3,108	2,100	543	24	8,939

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(8) 小児死亡

本県の14歳以下の小児の死亡数・率は令和6年で49人(小児人口10万人対25.7)と第8次保健医療計画の目標値19.2以下(R11年度)を上回っており、全国の19.5より高くなっている。

0～4歳の死亡数33人のうち19人(約6割)は乳児死亡となっており、死因別死亡状況では「先天奇形、変形及び染色体異常」、「傷病及び死亡の外因」が上位となっている。

表5 小児の死亡数・死亡率

区 分			0～4歳	5～9歳	10～14歳	全体
小児の死亡数 (人)	本県	平成27年	47	8	4	59
		令和2年	31	2	7	40
		令和4年	32	3	10	45
		令和6年	33	8	8	49
小児死亡率 (小児人口10万人対)	本県	平成27年	66.8	10.8	5.2	26.7
		令和2年	51.0	2.8	9.6	19.5
		令和4年	55.2	4.5	13.5	22.6
		令和6年	62.3	12.3	11.0	25.7
	全国	平成27年	54.0	8.5	8.4	22.7
		令和2年	44.7	6.1	8.1	18.4
		令和4年	43.6	6.3	8.0	17.8
		令和6年	46.5	7.6	10.1	19.5

資料：厚生労働省「人口動態統計」

表6 小児の死因別死亡数・死亡割合(令和6年)

0～4歳			5～9歳			10～14歳		
死 因	死亡数	死亡割合	死 因	死亡数	死亡割合	死 因	死亡数	死亡割合
先天奇形、変形及び染色体異常	7	21.2	神経系の疾患	3	37.5	傷病及び死亡の外因	3	37.5
傷病及び死亡の外因	7	21.2	新生物	2	25.0	神経系の疾患	2	25.0
周産期に発生した病態	6	18.2	呼吸器系の疾患	1	12.5	呼吸器系の疾患	1	12.5
神経系の疾患	3	9.1	感染症及び寄生虫症	1	12.5	内分泌、栄養及び代謝疾患	1	12.5
感染症及び寄生虫症	3	9.1	血液及び造血器の疾患、免疫機構の障害	1	12.5	循環器系の疾患	1	12.5
消化器系の疾患	2	6.1						
新生物	2	6.1						
血液及び造血器の疾患、免疫機構の障害	1	3.0						
症状、徴候・異常臨床所見	1	3.0						
その他(新型コロナウイルス感染症)	1	3.0						

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(9) 妊娠届出数（妊娠週数別の届出率）

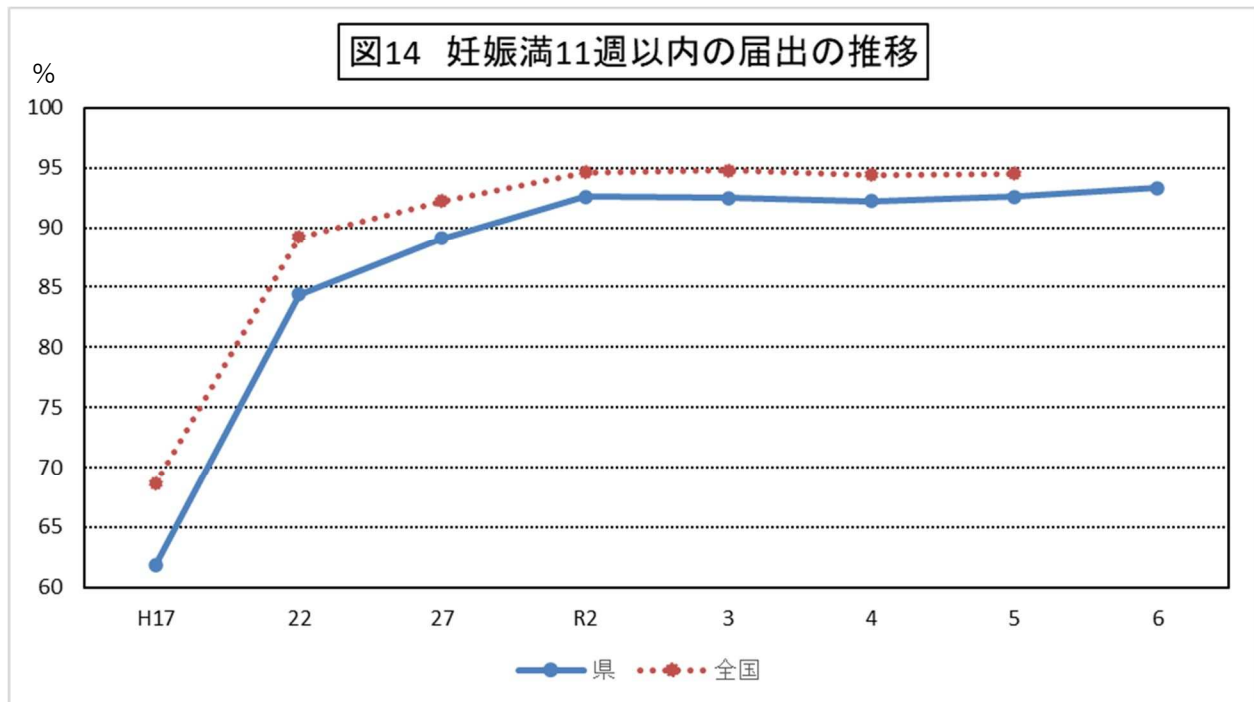
こども家庭庁が推奨する「妊娠満11週以内」の妊娠届出割合は高くなってきており、本県の令和6年度は93.3%となっているが、全国の94.5%より低い。満28週以降の届出件数は減少傾向だが、分娩後の届出数が13人みられている。

妊婦健診の平均受診回数は令和6年度には12.1回となっており、令和5年度より少なくなっている。

国は、低所得の妊婦の経済的負担の軽減を図るために、令和5年度から初回の産科受診料について1万円を上限に補助している。

		S55	60	H2	7	12	17	22	27	R2	3	4	5	6	国 (R5)
妊娠届出数（人）		16, 902	15, 217	18, 894	16, 892	16, 281	15, 281	15, 642	14, 156	11, 744	11, 003	10, 290	9, 383	8, 969	750, 992
妊 娠 週 数 別	満11週以内	33. 0	39. 3	48. 4	55. 1	58. 4	61. 8	84. 4	89. 1	92. 6	92. 5	92. 2	92. 6	93. 3	94. 5
	満12～19週	53. 8	49. 0	44. 4	39. 0	37. 1	35. 3	13. 5	9. 3	6. 2	6. 2	6. 8	6. 1	5. 6	4. 2
	満20～27週	9. 3	7. 7	4. 8	3. 7	2. 3	1. 8	1. 3	0. 8	0. 7	0. 7	0. 5	0. 7	0. 7	0. 6
	満28週以上	3. 7	3. 7	1. 9	1. 8	1. 9	1. 0	0. 7	0. 7	0. 5	0. 4	0. 4	0. 5	0. 2	0. 3
	不詳	0. 2	0. 3	0. 5	0. 7	0. 4	0. 1	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 1
分娩後届出数（人）		-	-	-	-	-	-	22	12	13	10	10	7	13	1, 594

資料：県子育て支援課「鹿児島県の母子保健」、厚生労働省「令和5年度地域保健・健康増進事業報告の概況」



	H17	22	27	R2	3	4	5	6
県	61.8	84.4	89.1	92.6	92.5	92.2	92.6	93.3
国	68.6	89.2	92.2	94.6	94.8	94.4	94.5	—

資料：県子育て支援課「鹿児島県の母子保健」、厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告の概況」

表7 市町村が実施した妊婦健診の平均受診回数

単位：回/人

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
平均回数	11.9	12.1	12.0	12.0	12.1	12.1	12.2	12.2	12.1	12.6	12.2	12.5	12.1

資料：県子育て支援課「鹿児島県の母子保健」

2 周産期医療資源

(1) 周産期母子医療センターにおける実績等

表8 周産期母子医療センターの状況 (R6. 4. 1～R7. 3. 31)

区 分		総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター					総合・地域計
施設名		鹿児島市立病院	鹿児島大学病院	いまきいれ総合病院	済生会川内病院	県民健康プラザ鹿屋医療センター	県立大島病院	
産婦人科病床数（一般）		37床	12床	22床	25床	23床	33床	152床
分娩数		600件	233件	120件	123件	170件	227件	1,473件
うち帝王切開実施数		421件	76件	72件	53件	82件	88件	792件
1日当たり従事医師数（常勤）	産科部門	22人	7人	3人	4人	4人	3人	
	新生児部門	14人	4人	3人	3人	4人	4人	
MFICU	病床数	6床						
	年間延利用日数	2,034日						
	利用実人員数	239人						
	稼働率	92.9%						
	うち搬送受入数	269人						
NICU（※）	病床数	36床	9床	9床	（1床）	（4床）	（5床）	
	年間延利用日数	10,996日	2,192日	2,637日	335日	1,234日	620日	
	利用実人員数	483人	124人	205人	33人	132人	52人	1,029人
	病床利用率	83.7%	66.7%	80.3%	91.8%	84.5%	34.0%	
	うち搬送受入数	113人	41人	106人	6人	21人	12人	299人
	低出生体重児数	295	71	124	7	36	31	564
	～999g	36	0	6	0	0	0	42
	1,000～1,499g	45	4	18	0	2	2	71
	1,500～1,999g	80	23	35	2	5	3	148
	2,000～2,499g	134	44	65	5	29	26	303
GCU	病床数	35床	—	12床	—	—	—	—
	病床利用率	69.5%	—	59.1%	—	—	—	—
ドクターカー出動件数		105回	—	42回	—	—	—	—
備 考		救命救急センター新生児用ドクターカーを設置、ドクターヘリを運航		H28.2月～新生児専用救急車運用	H25年度末ドクターカー配備			

(周産期母子医療センター令和6年度実績報告書より抜粋、ただし、GCU稼働率は病院に聞き取り)

※1 NICU病床数の()書きは、診療報酬非加算の病床数。 ※2 医師数は、令和7年4月1日現在。

※3 MFICU：母体・胎児集中治療管理室、NICU：新生児集中治療管理室、GCU：回復期治療室

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

総合・地域周産期母子医療センターの令和7年4月1日におけるNICU・GCUの入院児は、半年から1年未満が1人、1年以上が1人の計2人で、令和6年と比べると5人の減少となっている。

入院期間が半年以上の児の退院後の状況をみると、在宅への移行が0人、病院内（転棟）が2人、転院が4人となっている。

表9 長期入院児の状況（各年4月1日現在：周産期母子医療センター内のNICU・GCU内）

（単位：人）

	入院期間		原因疾患
	半年～1年未満	1年以上	
平成29年	3	2	新生児仮死，慢性肺疾患・気道異常，神経・筋疾患 等
令和3年	1	0	ヒルシスプルング病類縁疾患
令和5年	2	1	奇形症候群，慢性肺疾患，ヒルシスプルング病類縁疾患
令和6年	5	2	超低出生体重児，先天性横隔膜ヘルニア，慢性肺疾患 等
令和7年	<u>1</u>	<u>1</u>	低酸素性虚血性脳症，腸回転異常症
増減（対平成29年）	△ 2	△ 1	

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

表10 長期入院児の退院後の状況（年度実績）

（単位：人）

		在宅へ	NICUから GCUへ移行 ※1	病院内 ※2	転院	施設へ移行 ※3	その他 ※4	合計
退院児数 （入院期間が 半年以上の者）	平成28年度	3	—	0	0	0	0	3
	令和2年度	7	—	1	3	0	2	13
	令和4年度	0	13	1	0	0	3	17
	令和5年度	0	1	3	5	0	1	10
	令和6年度	0	7	2	4	0	3	16
	増減 （対平成28年度）	▲ 3	—	2	4	0	3	13

※1：令和4年度より項目新設

※2：自院内の小児科病棟等

※3：医療型障害児入所施設等の支援施設

※4：「死亡」については「その他」に計上

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

(2) 分娩取扱医療機関等

県内で産科・産婦人科を標榜している医療機関は年々減少しており、令和7年において64施設(平成29年は68施設)となっている。このうち、分娩を取り扱っている病院・診療所(以下、「分娩取扱医療機関」という。)は36施設(約57%)となっている。また、分娩を取り扱っている助産所が4施設ある。

表 11 周産期医療関連施設（各年4月1日）

	産科又は産婦人科を 標榜する 病院・診療所	病院・診療所の内訳			分娩を扱う 助産所
		分娩取扱医療機関 (病院・診療所)	妊婦健診を行う施設 (分娩は扱わない)	休診等施設	
平成29年	68	42	16	10	4
令和3年	65	39	18	8	4
令和5年	63	37	16	10	4
令和7年	64	36	17	11	4
増減 (対平成29年)	△ 4	△ 6	1	1	0

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

県では、小児科・産科医療圏として、「薩摩」、「北薩」、「始良・伊佐」、「大隅」、「熊毛」、「奄美」の6つの医療圏を設定しており、分娩取扱医療機関数を医療圏ごとにみると、薩摩18施設(鹿児島16、南薩2)、北薩4施設、始良・伊佐5施設、大隅4施設、熊毛2施設、奄美3施設となっている。

県の出生数8,939人(R6)から、出生千人当たりの分娩取扱医療機関数を算出すると、県全体で4.0(施設)となっており、令和5年より0.6ポイント高くなっている。

また、医療圏毎にみると、大隅の3.3から熊毛の10.9まで各医療圏で格差がみられる。

表 12 分娩取扱医療機関数（各年4月1日現在）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		始良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曾於	肝属			
分娩取扱 医療機関数	平成29年	21		5		6	4		2	4	42
	令和3年	19		5		5	4		2	4	39
	令和5年	18		4		5	4		2	4	37
	令和7年	18		4		5	4		2	3	36
	増減(対平成29年)	△ 3		△ 1		△ 1	0		0	△ 1	△ 6
出生千人 当たりの 分娩取扱医 療機関数	平成29年	3.1		3.0		2.9	2.1		7.0	4.4	3.1
	令和3年	3.2		3.7		2.8	2.6		8.1	5.3	3.4
	令和5年	3.3		3.4		3.0	2.9		10.4	4.2	3.4
	令和7年	3.9		3.9		3.8	3.3		10.9	5.2	4.0
	増減(対平成29年)	0.8		0.9		0.9	1.2		3.9	0.8	0.9

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

(3) 分娩取扱医療機関（36 施設）における医師数等

令和 7 年 4 月現在の産科医師数は、138.8 人(非常勤は常勤換算後)となっており、平成 29 年と比べると 17.8 人の増となっている。

令和 7 年 4 月現在の助産師数は、378 人(常勤)となっており、平成 29 年と比べて 16 人の増となっている。

出生千人当たりの産科医数は、大隅の 7.2 から熊毛の 22.4 と地域格差がみられる。また、産科医 1 人当たりの年間分娩件数についても、大隅では 115.2 件と最も多くなっている。

出生千人当たりの助産師数は、熊毛の 21.9 人から薩摩の 55.1 人と地域格差がみられる。

表 13 分娩取扱医療機関の産科医師数（各年 4 月 1 日現在）

（単位：人，件）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		始良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2 次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曽於	肝属			
産科医師数 (非常勤は 常勤換算)	平成29年		81.9		9.6	12.6		7.1	2.3	7.5	121.0
	令和3年		83.8		12.1	11.6		8.4	3.2	9.3	128.4
	令和5年		92.6		10.1	13.2		8.5	4.1	8.1	136.6
	令和7年		94.2		10.2	12.9		8.1	4.1	9.3	138.8
	増減(対平成29年)		12.3		0.6	0.3		1.0	1.8	1.8	17.8
出生千人 当たりの 分娩取扱 産科医師数	平成29年		11.9		5.8	6.2		3.7	8.0	8.3	8.8
	令和3年		14.0		9.0	6.5		5.4	13.0	12.4	11.0
	令和5年		17.2		8.6	7.9		6.2	21.4	11.5	13.0
	令和7年		20.4		10.0	9.0		7.2	22.4	16.1	15.5
	増減(対平成29年)		8.5		4.2	2.8		3.5	14.4	7.8	6.7
産科医一人 当たりの 分娩件数	平成29年		102.0		182.4	159.4		223.4	99.6	106.0	121.6
	令和3年		86.5		119.2	146.4		146.9	56.3	63.7	96.5
	令和5年		70.8		120.1	118.4		135.5	36.3	67.2	81.8
	令和7年		61.8		90.0	102.9		115.2	27.6	47.6	68.9
	増減(対平成29年)		△ 40.2		△ 92.4	△ 56.5		△ 108.2	△ 72.0	△ 58.4	△ 52.7

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

表 14 分娩取扱医療機関の助産師数（各年 4 月 1 日現在）

（単位：人，件）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		始良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2 次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曽於	肝属			
助産師数	平成29年		237		28	35		25	7	30	362
	令和3年		259		36	49		33	6	44	427
	令和5年		261		32	46		34	7	37	417
	令和7年		254		30	37		25	4	28	378
	増減(対平成29年)		17		2	2		0	△ 3	△ 2	16
出生千人 当たりの 助産師数	平成29年		34.5		16.8	17.2		13.0	24.3	33.4	26.4
	令和3年		43.4		26.9	27.6		21.1	24.4	58.6	36.7
	令和5年		48.4		27.1	27.4		24.6	36.5	52.3	39.6
	令和7年		55.1		29.4	25.9		22.3	21.9	48.6	42.3
	増減(対平成29年)		20.6		12.6	8.7		9.3	△ 2.4	15.2	15.9

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

3 小児医療資源

(1) 小児科を標榜している医療機関

県内で小児科を標榜している医療機関は年々減少しており、令和4年において239施設(平成22年は334施設)となっている。

小児人口1万人当たりの医療機関数は12.0であり、全国の14.7を下回っている。また、圏域別では、奄美が24.3と最も多く、熊毛が8.4と最も少なくなっている。

主たる診療科が小児科である医師数は、平成28年度から微増傾向にあり、小児人口1万人当たりでは令和4年において10.4人である。圏域別では、薩摩が14.3人、奄美が5.0人と地域差がみられる。

表15 小児科を標榜している医療機関数の推移

区 分	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年	令和2年全国
医療機関数	334	289	264	260	257	245	239	21,321
病院	48	44	45	46	44	42	41	2,523
診療所	286	245	219	214	213	203	198	18,798

資料：衛生統計年報（医療施設調査）

表16 小児科を標榜している医療機関数（圏域別）

区 分	薩摩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	奄美	県計	全国
医療機関数	109	21	43	28	4	34	239	21,321
病院	14	3	7	4	3	10	41	2,523
診療所	95	18	36	24	1	24	198	18,798
小児人口1万人当たりの医療機関数	11.3	8.7	13.5	10.0	8.4	24.3	12.0	14.7

資料：医療施設調査、推計人口

表17 主たる診療科が小児科である小児科医数（圏域別）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		始良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曽於	肝属			
小児科医数	平成28年	118		16		30	16		2	7	189
	平成30年	123		16		31	15		4	5	194
	令和2年	132		17		30	14		4	5	202
	令和4年	138		20		25	15		4	7	209
	増減(対平成28年)	20		4		△ 5	△ 1		2	0	20
小児人口1万人当たりの医師数	平成28年	11.1		5.9		9.0	5.1		3.6	4.5	8.6
	平成30年	11.8		6.1		9.4	4.9		7.5	3.3	9.0
	令和2年	13.0		6.7		9.3	4.8		7.8	3.4	9.7
	令和4年	14.3		8.3		7.8	5.4		8.4	5.0	10.4
	増減(対平成28年)	3.2		2.4		△ 1.2	0.3		4.8	0.5	1.8

資料：医師・歯科医師・薬剤師統計、推計人口

(2) 小児に対応している訪問看護ステーション

県内で小児の訪問看護に対応する訪問看護ステーション数は増加傾向で推移しており、令和7年9月調査においては、85施設となっている。このうち、令和6年度において小児の訪問実績がある訪問看護ステーション数は57施設となっている。

表 18 小児の訪問看護に対応可能な訪問看護ステーション数の推移

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
小児に対応可能なステーション数	62	73	73	84	86	88	91	87	85	85
小児の訪問実績あり	43	46	50	54	59	66	67	61	54	57

資料：県子育て支援課調べ